

目次

中世神社史と神道説

【シンポジウム】

基調講演

中世神社史と神道説 …………… 島根大学名誉教授・大阪工業大学名誉教授 井上寛司氏…………… 5

発題

中世の神社と神道 ―もう一つの神社神道論― …………… 國學院大學教授 岡田莊司氏…………… 22

コメント1 …………… 茨城大学教授 伊藤聡氏…………… 34

コメント2 …………… 北九州市立大学教授 佐藤真人氏…………… 40

討論 …………… 司会 国士舘大学教授 藤森馨氏…………… 49

【研究発表】

〈第一部会〉

八世紀から九世紀にかけての令制からみる宮主の基礎的研究	廣木健太郎	75
神職の祭祀服制に関する考察	後藤正明	77
私祈祷の展開	古谷易士	80
能『高砂』にあらわれた中世的歴史認識 — 阿蘇大宮司と住吉大社 —	島村眞智子	82
会沢正志斎における『神皇正統記』の受容	齋藤公太	84
岩倉具視の国葬と神葬祭式	半田竜介	87
大嘗祭における阿波忌部の籠服調進	竹内雅之	90
明治前半期における古語拾遺と国学者	松本久史	92
上田賢治の神道論 — その一、神話学へのアプローチ —	Alfonso Falero	94
古代出雲の神殿創建 — 田中卓博士の御批判に答へて —	岡田莊司	98

〈第二部会〉

「神道私見」論争と神社対宗教問題 — 河野省三の言説を中心に —	高野裕基	99
今泉定助の「世界皇化」について	川島啓介	101
大祓詞近代化の一考察	東郷茂彦	103
明治憲法と「富田メモ」	椎原晩聲	106

神社界将来予測一端―神職数の推移から―……………牟禮 仁……………111

〈第三部会〉

笈克彦「日本体操」考―再現動作と音声資料等をふまえて―……………中道 豪……………115

明治後期の教派神道―岡山県下の金光教と黒住教―……………藤井 麻央……………118

近代恐山における「観光化」の様相……………大道 晴香……………120

神田祭・蔭祭考―蔭祭からみる現代の都市祝祭―……………秋野 淳一……………123

現代の忌避と怪談に関する一考察……………古山 美佳……………126

外来系新宗教の社会活動―モルモン・ヘルピングハンズを事例として―……………杉内 寛幸……………129

神社の文化性を活用した体験的学習（ワークショップ）による教化プログラムの

開発に関する一考察……………板井 正斉……………132

井上正鐵の村越一族宛書簡……………萩原 稔……………135

限界集落化と神社神道……………石井 研士……………138

【パネル発表】

近現代における伊勢信仰研究への視角―参宮と奉賛をめぐって―……………代表 八幡 崇経……………141

企画主旨

御師制度廃止後の伊勢信仰研究の諸課題……………櫻井 治男……………142

九州北部における伊勢信仰の近代――内宮旧師職資料の分析から――	八幡崇経	145
伊勢参宮者の初穂の納付形態をめぐって	久田松和則	148
近代における東日本からの伊勢参宮――交通手段の変化を中心に――	石川達也	150
コメント	藤本頼生	152